

---

# Concours d'entrée 2023

---

## Annexe sujets

---

**Japonais**  
**Série Langues**  
**Vivantes**

---



Article : 西山公隆『日本経済 今年も世界の動き次第』（朝日中高新聞 2023年1月8日）

# 日本経済 今年も世界の動き次第



## ウクライナ情勢、米金利が招く物価高

昨年は「物価が上がって大変」という声をよく耳にしただろう。



「ドル150円台」になった為替相場を表示するモニター。2022年10月20日、東京都港区の外資ビルで撮影

昨年の日本経済は、モノの値段（物価）が上がったことが大きな特徴だった。ロシアがウクライナに攻め込んだり、米国などのお金に関する政策が変わって日本の「円」の価値が急に下がったりしたことが、主な原因だ。今年も外国の動きに左右される年になりそうだ。

原因としてまず、ロシアが隣のウクライナに攻め入ったことがある。ロシアは欧州に原油や天然ガスを売っているが、欧米の国々がロシアをこらしめるために買う量を減らすと決めた。逆にロシアは欧州に売る量を減らすなどした。欧州の国々はほかの国から買わなければならなくなり、世界中の国を取り合いにあって値段が上がった。これは欧州だけの話ではない。日本も原油や天然ガスのほとんどを外国から買っている。世界的に値段が上がったから、今までより高く買わなければならなくなり、電気・ガス料金、石油を原料にした製品の値段が上がった。また、ウクライナは小麦など穀物の世界的な生産国だが、ロシアに攻められて思うように輸出できなくなった。そこで世界的な穀物不足が起こり、食糧の値段も高くなった。物価が上がった原因はほかにもある。日本の「円」の価値下がったことだ。

米国の銀行からお金を借りる時の使用料に当たる「金利」を大幅に上げ始めた。すると、銀行ほどお金を預けて受け取る「利子」も増える。日本の利子はとても低いので、外国にお金を預ける方が得になる。そのため、円を売ってドルなど外国のお金に換える人が増え、円の価値が下がる「円安」になる。円安になると、輸入品を買う値段が上がるため物価も上がることになる。例えば、ドル1ドル100円が、ドルの人気が上がって円の価値が下がってドル1120円になったとする。すると、ドルの輸入品は100円で買ったのに、120円出さないと買えなくなる。円は2011年にドル75円台だったが、昨年10月にはドル150円台にまでなった。

## 円安に区切りか／中国の動向にも注目

政府は、円安が一気に進んでいった昨年秋に「為替介入」で対応した。政府と日本銀行が市場で多くのドルや円を売ったり買ったりし、円の価値が急に下がるのを防ごうとした。円安の場合は「ドルを売って、円を買ったことで円高になるようにする。22年9月下旬から約1カ月の間に約9兆円の為替介入をしたと明らかにしている。最近、米国は金利を上げるペースを緩めている。まだ、日本政府は円安に為替介入で対応しているし、日本銀行も

金利を低く抑え置く政策を見直した。実際にドル1130円程度に戻っていて、専門家の中には円安には区切りが来たという声もある。日本でも金利が少しずつ上がり始めていて、住宅を買うときのローンの金利も一部が上がった。買う人の負担が増えるかもしれない。円安にはいいところもある。外国から日本に来る人にとっては価値を受け取る円が増えるから、日本に来るようになる。外国人観光客がお金をたくさん使ってくれば、日

本経済にはいい材料になる。新型コロナウイルスの感染拡大では、人の移動を厳しく制限していた中国で工場などが動かず、自動車や機械の部品が世界的に不足したこともあった。中国では最近、ゼロコロナ政策を緩めて感染が再び広がってきているので、世界の経済にはマイナスになる可能性がある。



値上げのお知らせが掲げられた牛乳の売り場。2022年11月15日、東京都練馬区で撮影



解説者  
西山公隆  
朝日新聞東京本社  
経済部長